

日立金属の価値創造とは

日立金属グループは、高機能な材料技術の開発、製品の提供という事業活動を通じて社会課題の解決に貢献してきました。
私たちの価値創造とは、お客様の価値創造を通じて、その背景にある社会課題の解決に寄与し、企業価値の向上を図ることです。
この章では、私たちの価値創造におけるプロセス全体をご説明した後、価値創造を実現する私たちの強み、およびその成果である製品について、いくつかの具体例をご紹介します。

日立金属グループの価値創造プロセス	14
日立金属グループの強み	16
価値創造の成果	18

日立金属グループの価値創造プロセス

日立金属グループは、変化する時代の中で、お客様や市場が必要とするものに常に耳を傾け、時代の先端を走る高度な新製品・新技術を提供しています。私たちは、お客様の価値創造を実現することが、さまざまな分野での社会課題の解決の一助を果たし、企業価値の向上につながると考えています。そして、このような価値創造プロセスを通じて、「世界トップクラスの高機能材料会社」へ挑戦しています。

日立金属グループは、「高度な技術」「知見ある人材」「健全な財務体質」を基盤に、「グローバルなお客様のニーズを具現化する力」を強みとして発揮しています。特に、「設計・企画提案力」「研究成果をスピーディーに製品化する力」「お客様との対話に基づき新素材・新製品を市場投入する力」は、日立金属グループの独自性や競争優位性を支えるコア・コンピタンスであると考えられています。

1.

日立金属の強み

グローバルなお客様のニーズを具現化する力

- 設計・企画提案力
- 研究成果をスピーディーに製品化する力
- お客様との対話に基づき新素材・新製品を市場投入する力

事業基盤

高度な技術 知見ある人材 健全な財務体質

より快適に、より効率よく、より安全に、など、お客様のマーケットニーズはますます多様化、高度化しています。そのような中で、私たち高機能材料メーカーが担う役割は大きく、社会に貢献できる機会が数多く存在します。日立金属グループは、産業インフラ、自動車、エレクトロニクス分野において、未来に続くマーケットニーズを探求しつつ、研究開発などの事業活動を営んでいます。

2.

未来に続くマーケットニーズ

省エネ、軽量化、安全・・・

- 産業インフラ
- 自動車
- エレクトロニクス

事業活動

研究開発 製造 販売

日立金属グループは、「オーガニックグロースの拡大」「新たなニーズ・市場、事業領域への挑戦」「事業構造改革」といった成長戦略を掲げています。「グローバルなお客様のニーズを具現化する力」という強みを生かし、成長戦略を推進することで、よりイノベティブで強い、新しい日立金属をめざしています。

3.

成長戦略

よりイノベティブで強い、新しい日立金属へ

- オーガニックグロースの拡大
- 新たなニーズ・市場、事業領域への挑戦
- 事業構造改革

日立金属グループは、お客様の新たな価値創造の実現と、その背景にある社会課題の解決に寄与することで、企業価値の向上をめざしています。その過程において、技術発展と蓄積、従業員のスキル向上、最適な資本・資金経営といった事業基盤の拡充が実現されます。この循環を永続的に続けることが、私たちの価値創造プロセスです。

4.

お客様の価値創造を実現 社会課題の解決

事業基盤の拡充

技術発展、蓄積 スキル向上 最適な資本・資金経営

日立金属グループは、このようなプロセスを通してお客様の価値創造に貢献するとともに、持続的成長を図りながら、世界トップクラスの高機能材料会社をめざしています。

5.

世界トップクラスの高機能材料会社

持続的成長

日立金属グループの強み

より快適に、より効率よく、より安全に、など、お客様のマーケットニーズがますます多様化、高度化していく中、日立金属グループはお客様と一体となって課題に取り組み、さまざまな成果を共有することで、お客様の期待に応えてきました。この「お客様との対話に基づき新素材・新製品を市場投入する力」は、私たちの競争優位性の一つであり、お客様の価値創造に貢献するものにとらえています。ここでは、特殊鋼事業の取り組みを通じて、価値創造の源泉となる私たちの強みをご紹介します。

お客様とサプライヤーの垣根を越えて課題に取り組む

当社の特殊鋼ブランドYSSヤスキハガネ／Yasugi Specialty Steelは、現在、金型や自動車部品、航空機・エネルギー材料など、多岐にわたる領域で高いシェアや評価を獲得しています。

その背景には、材料技術・製品開発力に加え、日立金属がお客様との対話を起点に課題を共有し、二人三脚で歩む取り組みがあります。

その象徴的な例が、2015年に創設された「ソリューション&エンジニアリングセンター(SEC)」です。

SECでは、お客様が抱えている悩みに対し、お客様と協働しながら基礎的な部分を含めて課題解決にあたります。例えば、課題に対するプロジェクトにおいて、当社の技術者だけでなく、お客様の技術者も参加していただく体制を構築します。プロジェクトの過程では、当社が得意とする金属組織の改善による冶金学的アプローチや、高級特殊鋼において豊富な知見を有する冶金研究所のCAE^{*1}技術の活用など、さまざまなノウハウが共有されます。単にお客様の課題解決というテーマだけではなく、金属学的な原理・現象をふまえてお客様と研究を進めていきます。課題の本質を二人三脚で探ること、これこそが単なるサプライヤーとしての役割を超えたお客様への付加価値の提供であると考えています。

三部門の連携でグローバル展開をめざす

特殊鋼事業では、このようなお客様と一体となったSECの取り組みに加え、技術部門とグローバル営業部門の取り組みが連携することで、YSSヤスキハガネ／Yasugi Specialty Steelブランドのグローバル展開を図っています。

技術部門では、海外現地における加工拠点の技術サービスの標準化や、ナショナルスタッフの教育、ブランディング強化、そ

の優れた特長を伝える営業ツールの制作など、グローバル展開における基盤整備を実施しています。そして、グローバルに配置された営業部門では、この基盤整備によるサービス面の拡充とともに、SECが有する最先端技術をお客様に提案します。この三つの部門が一体となって事業を進めることが、グローバル展開のエンジンとなります。

地域別の展開状況としては、すでに北米市場とアジア市場を重点地域として事業拡大を推進しており、欧州市場についても準備を進めています。

北米市場では、2015年11月にDiehl Tool Steel, Inc.を同市場における切断・加工を含む流通サービス拠点として連結子会社化し、販売ネットワーク網を確保しました。また、2016年4月には、欧米標準鋼の組成と同等でありながら、熱処理変寸の抑制、耐摩耗性の向上などで高い特性を持つ新冷間ダイス鋼SLD-iTMの量産を開始しました。

さらに、アジア市場では、自動車鋼板のハイテン化が進む中、より高性能な金型が求められており、材料だけでなく、加工、表面処理といったソリューション提案へのニーズの高まりが予測されています。そこで、2016年5月には、アジアの各販売拠点に新たに切断・加工、および表面処理設備の導入を決定し、ソリューション営業体制を強化しました。

また、欧州市場においては、SECと営業部門が連携し、現地自動車メーカーへCAEを活用した金型の劣化診断を提案するなど、独自のサービスを打ち出すことで新たなお客様の開拓をめざしています。

このように、SEC、営業部門、技術部門が一体となって、ソリューション営業体制を強化するとともに、新たに開発した新冷間ダイス鋼SLD-iTMの拡販を進めることで、グローバル展開を加速しています。

*1 CAE=Computer Aided Engineering。設計した構造物が要求性能を満たすかどうかを、実際に物を作る前にコンピュータ上でシミュレーションして調べること。
*2 YSSとヤスキハガネは、日立金属株式会社の登録商標です。

お客様に深く入り込んだソリューション提案をグローバルに展開

高級金属カンパニー
ソリューション&エンジニアリングセンター
センター長 田村 庸



SECでは、お客様と日立金属の技術者が議論を交わしている場面が頻繁に見られます。最近では、国内の自動車メーカーのお客様とのプロジェクトにおいて、金型の長寿命化をテーマとした研究を実施しました。当初は困難かと思われた寿命の倍増計画ですが、結果、3倍の長寿命化に成功するなど、期待を上回る成果も出てきています。このような成功体験も得られることから、お客様も自然にSECへと足を運び機会が増えてきます。まさに、お客様とサプライヤーの垣根がなくなる場所とも言えるでしょう。

また、お客様にとって、製品の改善もさるこ

とながら、大きな収穫となるのは自社の若手人材の育成にもつながっている点でしょう。協働プロジェクトは、お客様自身の研究の高度化に加え、人材育成の場としても高い評価を得ています。

このように、当社の課題解決に向けたアプローチ手法や思考プロセスをお客様に現場レベルで共有していただいていることが、当社の強みであり、お客様の価値創造に貢献している点だと思えます。今後は、このようにお客様に深く入り込んだ取り組みをグローバルでも展開していきたいと考えています。

モノを売るということは自らの強みを伝え、広げること

高級金属カンパニー
技術部長 井上 謙一



私の所属する技術部では、製品の販促企画やマーケティングを行っています。技術部は経験豊富な人材が多いため、経験に基づいた最適な組み合わせや新たな発想による提案をすることができると。例えば、ある分野の金型に対して、お客様目線のラインアップを考案し、製品の違いや魅力が端的に理解できるようにツールを開発しています。そして、このお客様に役立つ情報を、当社グループの開発部門から製造、営業部門まで周知させていく役目を果たしています。

また、技術部では、特殊鋼のグローバル拡販に伴うインフラ整備や人材育成を支援していま

す。特に、工具鋼は納品前の最終工程をお客様の近くで仕上げる必要があることから、物流機能や切断、熱処理などの加工インフラの整備が重要となります。同様に、人材の技術サービスのレベルも非常に重要です。このような加工インフラといったハード面と、人材育成といったソフト面を両面から支援しています。

私は、モノを売るということは、自らの本質と強みを外に伝えて、広げることと同義だと思えます。世界各地で当社の製品が最終製品の性能に貢献することで、私たちの強みはさらに広まっていきたいと思います。

北米でも高い評価を受ける YASUGI SPECIALTY STEEL

Hitachi Metals, America, LLC
Executive Director, Tool Steels
Thomas Bell



私は、2014年に日立金属グループの一員となってからというもの、さまざまな用途において他を凌ぐ品質を誇るYasugi Specialty Steelの北米市場における優位性を実感しています。当社の成長戦略の中心となるのは、ダイカスト金型用鋼DACと新冷間ダイス鋼SLD-iTMです。このたび、

Accu-SquareTMをはじめとする工具用ブラック等の加工・販売を事業とするDiehl Tool Steel, Inc.が日立金属グループの子会社となりましたが、当社の販売チームは同社とともに、Yasugi Specialty Steelブランドを武器として、工具鋼市場における新たなお客様の開拓を進めてまいります。

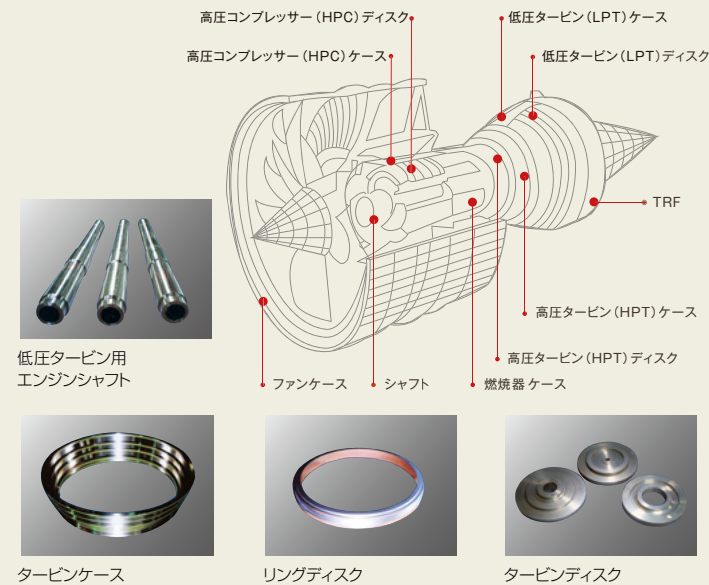
価値創造の成果

産業インフラ関連分野

燃費効率改善と高出力化に伴いますますます過酷になる使用環境で
高い信頼性と機能を発揮する航空機・エネルギー関連材料

独自に築き上げた材料技術や品質保証体制・研究開発体制をバックボーンに、世界中のお客様に信頼される材料とサービスを提供し続けてきました。高度な特殊溶解技術と製造プロセスによって、これからも価値ある製品を提供し、世界の航空機・エネルギー産業のイノベーションに貢献していきます。

航空機用ジェットエンジン



過酷な使用環境での
「高性能」「高信頼性」
に貢献する
高機能材料製品



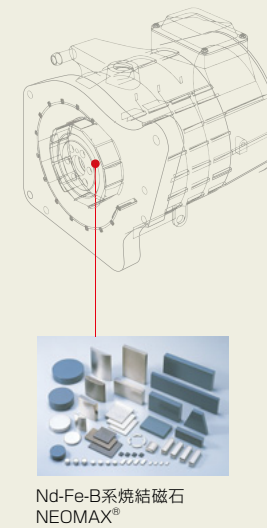
私たちのつくる「素材」は、ユーザーの目に触れる機会こそまれですが、最終製品に求められる性能、品質を実現するために大きな役割を果たしています。日立金属グループは、お客様のニーズを具現化するアイデア・発想でプロセスを常に革新しながら製品力を磨き、幅広い分野でお客様の最終製品の価値創造に寄与しています。

自動車関連分野

磁気特性に優れた磁性材料で、
エネルギー効率の高い自動車の実現に貢献

私たちの磁性材料は、環境にやさしいハイブリッド自動車や電気自動車の心臓部と言える駆動モーターや発電機に採用されています。世界に先駆けて量産を開始したNd-Fe-B系焼結磁石NEOMAX[®]は、永久磁石の中でも最高クラスの磁気特性を実現し、モーターの小型・高性能化に貢献しています。さらに、DDMagic[®]をはじめとする重希土類拡散技術を使用することが、重希土類の使用量を減らすと同時に、より高性能な磁石を供給することにつながっています。

EV用駆動モーター



小型化、高効率化を
実現する磁性材料

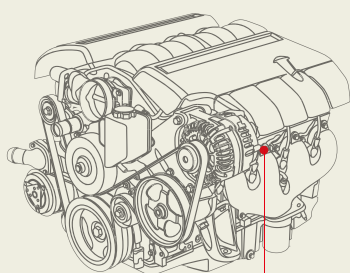


自動車関連分野

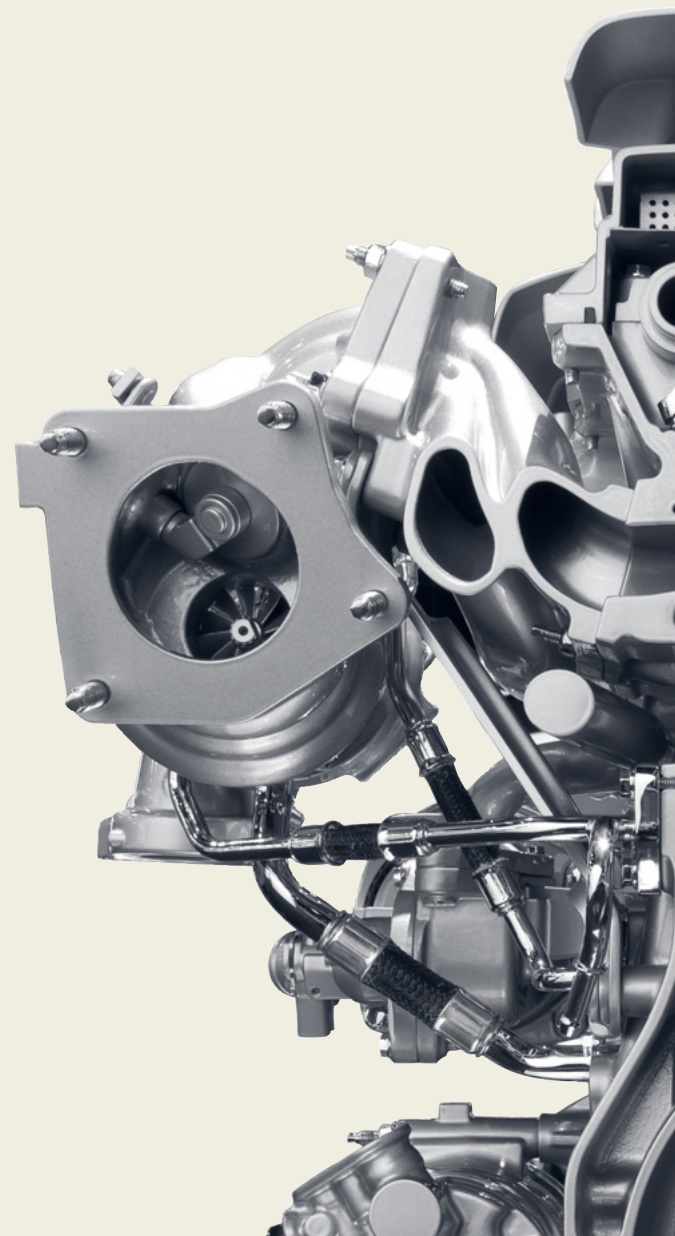
グループ技術力を駆使し、自動車の先進化に
欠かすことができない高機能部材を提供

自動車の性能は日々、進歩しています。日立金属グループは長年にわたり、エンジン、排気系、ステアリング、シャシー、電子機器など幅広いジャンルで自動車部品を開発し、自動車の先進化に貢献してきました。自動車の環境性能向上のため、ダウンサイジング（小型化）するエンジンには、耐熱鋳造部品ハーキュナイト[®]がターボ部品として使われます。優れた耐熱性と複雑形状への対応力で、お客様のニーズに応えています。

自動車用エンジン



耐熱鋳造部品
ハーキュナイト[®]



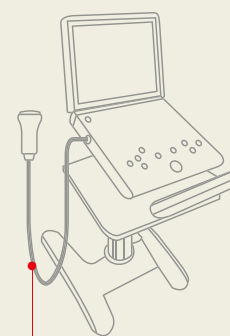
材料提案力
優れた耐熱性
複雑形状への
対応力

エレクトロニクス関連分野

ケーブル、チューブの技術力を生かし、
医療の診断分野に加え、分析・治療の分野へ進出

日立金属グループは、磁性材料技術や電線材料技術で医療技術の進歩に貢献しています。エコー検査で用いる超音波診断装置のプローブケーブルは軽量でしなやかさや耐久性に優れるだけでなく高い電気特性を兼ね備えており、取り扱いやすさと画像の高精細化を実現しています。さらに、診療分野だけでなく治療分野であるカテーテル等の医療用チューブ事業に取り組み、医療技術の向上に貢献しています。

医療用超音波診断装置



超音波診断装置用
プローブケーブル



医療用チューブ



耐屈曲性、
可とう性、
高い電気特性
微細な
多孔成形技術